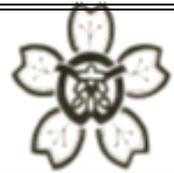


朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数 963名
令和3年12月1日号



創立55周年航空写真撮影から考える。

校長 田邊 雅也

11月10日、撮影日は快晴です。久しぶりに全校児童が一度に校庭に集合しました。子供たちの表情は明るく、とても楽しそうで喜びにあふれていました。

歴史を振り返ると、朝霞市は昭和42年3月15日に市制が施行され、朝霞第六小学校が、朝霞駅前通りにあった川越高等学校朝霞分校（定時制）の校舎を使い、現在の朝霞市役所のある場所に開校されました。朝霞市の人口が増えたことで、教室が不足し、次々にプレハブ教室が建設されました。手狭になったため、昭和46年2月に鉄筋四階建の現在の校舎が建設されました。昭和48年3月には、26学級、児童数1515名もの大規模校となりました。高度成長期の活気ある昭和の教育が展開され、卒業生が大人になり、日本をさらに発展させてくださいました。

話題のメタバース (Metaverse)

「メタバース」という言葉がニュースで話題になっています。インターネット上に作られた3Dの仮想空間のことで、meta（超越）とuniverse（宇宙）を組み合わせた造語です。注目すべきは、コミュニケーションも経済活動も現実と同様に行えるようになることです。だれでもアバター（自分の分身キャラクター）で参加し、国境を越えてコミュニケーションをとることも可能です。すでにメタバースでの土地が売り出され、価格が現実の不動産価格に匹敵するものもあるそうです。いつでもだれでも同じバーチャル世界を共有できるのです。ということは、教育活動もできるはずです。

創立65周年ごろを空想してみました。

校長の勝手な空想です。2030年頃、メタバースの中に「デジタル朝霞第六小学校（仮名）」が建築され、こちらでも教育活動が展開されています。デジタルの学校行事も盛んで、e-スポーツ大会、e-縦割り集会、e-音楽会などが開催されます。e-ラーニングがさらに進み、個別最適な学びはもちろん、世界の人と繋がり、協働的な学びが実現しています。保護者の方もご自宅やお勤め先からアバターでの授業参観・懇談会・個人面談・学校行事に参加され、時には、子供たちの学びをメタバースの中で支援しています。

オミクロン株が流行しても学びを止めない。

11月末に、オミクロン株という感染力の強い変異株がアフリカ南部で大流行し、欧州でも発見されました。2ヶ月後に日本でも大流行するのではないかと報道もあります。3ヶ月前、私たちは、デルタ株による第5波で、分散登校とハイブリッド型オンライン授業を経験しました。皆、大変な思いをしましたが、子供たち、教職員、保護者が共にデジタルリテラシーを向上させたことは大きな収穫でした。世界で感染拡大しないことに越したことはありませんが、子供たちのデジタルリテラシーを向上させ、学びを止めない体制づくりは推進していかなくてはなりません。未来を担う子供たちのためです。

11月はデジタルリテラシーを高める授業がたくさん

限定公開のYouTubeでは、デジタルリテラシーを向上させてきた授業を紹介しています。今後も5Gや6Gの本格的な導入によるテクノロジーの急激な進化が予想されます。授業を組み立てる大人にとっては手探りではありましたが、子供の適応能力は高く、授業の風景も変わってきました。YouTubeで学校の変容をご覧いただけたら幸いです。近い将来、メタバースの中のデジタル朝霞第六小学校で、アバターと化した子供たちと先生が世界と繋がり、保護者が支援する教育活動が現実のものになるかもしれませんね。